

自己評価報告書

平成23年 4月 5日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520340

研究課題名(和文) 日本伝存典籍による漢籍佚文の輯集と研究

研究課題名(英文) A study on dissipated ancient Chinese literature collected from books existing in Japan

研究代表者

河野 貴美子 (KONO KIMIKO)

早稲田大学・文学学術院・准教授

研究者番号：20386569

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：文献学 漢籍 佚文 注釈 日中古典学

1. 研究計画の概要

本研究は、日本の学術・文化の形成を、中国の学術・文化、特に漢籍の受容と、その日本における変容、展開という面から捉えようとするものである。具体的には、奈良末・平安初期の興福寺僧善珠が撰述した仏典注釈書を研究対象の中心として、その漢籍引用部分を整理し、そこに存する佚文を輯集するとともに、日本、そして東アジアに共有された漢字漢文文化の特質と本質を明らかにするための新たな手がかりを築くことを目指している。具体的には、以下の4点を柱とする。

(1) 善珠撰『成唯識論述記序釈』及び『因明論疏明灯抄』の伝存諸本を調査し、本文を校訂、整理する。

(2) 善珠撰述書から抽出した漢籍引用文のうち、特に佚文、異文部分を明らかにし、問題と意義を整理する。

(3) 善珠撰述書における漢籍の引用文を「資料集成」としてまとめ公開する。

(4) 整理した資料をデータベース化する。

2. 研究の進捗状況

(1) 善珠撰『成唯識論述記序釈』の版本及び東大寺図書館所蔵の写本の複写資料、『因明論疏明灯抄』の興福寺所蔵写本の複写資料を入手し、『成唯識論述記序釈』については全体、『因明論疏明灯抄』については漢籍引用部分を中心として、大正新脩大藏經所収の活字テキストとの本文対校、校訂を進めた。

(2) 『成唯識論述記序釈』及び『因明論疏明灯抄』の漢籍引用部分について、その出典典拠を明らかにするとともに、佚文、異文を整理抽出する作業を行った。すなわち、梁・顧野王『玉篇』などの佚書からの引用文(佚文)について、写本資料によって新たに見出

された佚文に特に注意をはらいながら、佚文輯集を進めた。また、出典が明らかな場合には、現在伝存する当該テキストとの異同の有無を調査した。合わせて、奈良・平安初期当時、いかなる漢籍がいかに利用されていたか、当時使用されていたテキストや学問の状況等について検討、考察を行った。

(3) 以上述べた諸本研究及び佚文、異文の輯集と研究は、最終的に電子資料としてとりまとめ蓄積保存している。

(4) 以上の研究と合わせて、善珠以外の奈良・平安期の仏典をはじめとする注釈書類にも視野を広げ、同じく諸本の調査、複写資料などの収集、漢籍引用部分における佚文、異文を中心とした整理、研究を行っている。これは、古代日本の漢籍受容の全体像を把握するためにも必須の作業であり、翻って善珠撰述の注釈書の学術文化史における位置付けをも明らかにすることにつながるものである。

3. 現在までの達成度

② 主たる研究対象として掲げた『成唯識論述記序釈』と『因明論疏明灯抄』については、現在伝存する写本等の諸本を直接に調査し、テキスト研究に必要な基本的環境を整えた上で、本文校訂や漢籍佚文、異文の輯集作業を進めている。また、研究の過程において、従来整理あるいは指摘されることのなかった当該資料の意義も既に少なからず見出され、国内外において学会口頭発表や論文発表を重ねている。研究の成果発表の方法としての資料集成やデータベースの作成についても、その基盤となる資料整理、電子資料化は一定程度進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 引き続き『成唯識論述記序釈』と『因明論疏明灯抄』の本文校訂と漢籍佚文の輯集、異文の整理、確認を進めるとともに、成果公開にむけてデータの作成を行う。

(2) 善珠撰述の上記以外の注釈書や具平親王『弘決外典鈔』等、密接に関連する資料についても引き続き調査、研究、考察を行い、漢籍の引用を多数含む日本伝存典籍について総体的に見渡すべく作業を進める。

(3) 資料集成やデータベースの作成については、(1)にあげた本来の計画を主軸としつつ進めるとともに、(2)に述べた関連資料についても効果的に取り入れることができるよう具体的方法を検討していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

(1) i. 河野貴美子 ii. 北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』について iii. 汲古 iv. 有 v. 58 vi. 2010 vii. 21-31

(2) i. 河野貴美子 ii. 古代日本における『周易』の受容 iii. 国文学研究 iv. 有 v. 161 vi. 2010 vii. 22-32

(3) i. 河野貴美子 ii. 本草学と医薬書 iii. 小峯和明編『中世文学と隣接諸学1 漢文文化圏の説話世界』(竹林舎) iv. 無 v. - vi. 2010 vii. 171-195

(4) i. 河野貴美子 ii. 《因明論疏明灯抄》対漢籍的引用 iii. 王勇主編『書籍之路与文化交流』(上海辞書出版社) iv. 無 v. - vi. 2009 vii. 82-103

(5) i. 河野貴美子 ii. 關於興福寺藏《經典釈文》以及《講周易疏論家義記》 iii. 張伯偉編『風起雲揚 首屆南京大学域外漢籍研究國際學術研討會論文集』(中華書局) iv. 無 v. - vi. 2009 vii. 531-547

(6) i. 河野貴美子 ii. 具平親王『弘決外典鈔』の方法 iii. 吉原浩人・王勇編『海を渡る天台文化』(勉誠出版) iv. 無 v. - vi. 2008 vii. 49-80

(7) i. 河野貴美子 ii. 渤海使と平安時代の宮廷文学 iii. 仁平道明編『平安文学と隣接諸学5 王朝文学と東アジアの宮廷文学』(竹林舎) iv. 無 v. - vi. 2008 vii. 316-343

[学会発表] (計7件)

(1) i. 河野貴美子 ii. 古注釈からみる源氏物語と唐代伝奇 iii. 明治大学古代学研究所公開シンポジウム 源氏物語と唐代伝奇 iv. 2010.12. 11 v. 明治大学

(2) i. 河野貴美子 ii. 日本と渤海の交流と文学——日渤応酬詩の意義 iii. 建国大学校シンポジウム「日本古典文学における異

文化交流とその展開をたどる」 iv. 2010.11.13 v. 韓国・建国大学校

(3) i. 河野貴美子 ii. 中国古典籍研究における日本伝存資料の意義——北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』をめぐって iii. 日本中国学会第62回大会 iv. 2010.10.09 v. 広島大学

(4) i. 河野貴美子 ii. 唐代仏典注釈書にみる「漢字学」——湛然撰『止観輔行伝弘決』を中心に—— iii. 漢字文化遡源——文字から書籍へ—— iv. 2010.09.11 v. 中国・鄭州大学

(5) i. 河野貴美子 ii. 孝をめぐる言説の展開と古代日本における受容 iii. 2009年度豪州日本研究大会・日本語教育国際研究大会(JSAA-ICJLE2009) iv. 2009.07.13 v. オーストラリア・ニューサウスウェールズ州立美術館

(6) i. 河野貴美子 ii. 経書の継承と展開——日本における『周易』受容—— iii. 国際シンポジウム「東アジアの文化遺産——その普遍性と独自性——」 iv. 2009.05.10 v. アメリカ・コロンビア大学バーナード学院

(7) i. 河野貴美子 ii. 具平親王『弘決外典鈔』の方法 iii. 浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所主催第三回共同シンポジウム「海を渡る天台文化」 iv. 2008.05.31 v. 中国・天台賓館